

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 24 号 平成 19 年 11 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

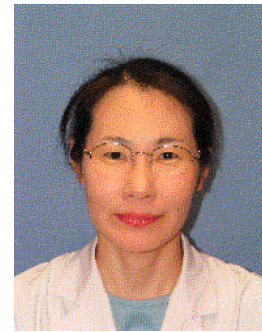
TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

糖尿病のかゆみについて

皮膚科部長 森 誉子



糖尿病のかゆみは、湿疹や蕁麻疹などと異なり、皮膚病変を伴わない皮膚掻痒症といわれるものです。糖尿病に特徴的なかゆみとして一般によく知られているのは、女性の外陰部における限局性のかゆみです。カンジダ症の合併がなくこの症状がみられる女性は、まず糖尿病を疑います。また、全身性のかゆみも比較的多く現れます。糖尿病における全身性のかゆみの発症頻度を正確に把握するのは難しいのですが、男女とも数%程度に現れると思われまます。いずれにおいても、その頻度や程度が、糖尿病の進行度と相関することはありません。ただし、血糖のコントロールが良好に進むと、かゆみのコントロールもうまくいくという傾向がみられます。糖尿病のかゆみの原因としては、皮膚の乾燥症状によるもの、糖尿病性腎症に起因するもの、糖尿病治療薬による薬剤誘発性のものの3つが考えられます。一般に糖尿病の患者さんには乾燥肌の方が多くみられますが、その理由として①高齢者が多いこと、②糖尿病性ニューロパチーに伴う末梢の自律神経障害により汗腺からの発汗が低下して、皮膚の皮脂膜形成能が低下していることなどが考えられます。第2に、糖尿病性腎症の影響が考えられます。とくに血液透析を受けているような患者さんでかゆみが生じることが多いようです。第3に、インスリンや経口血糖降下薬であるスルフォニル尿素製剤のトルブタミドなど、糖尿病の治療薬が原因で生じる薬剤誘発性のかゆみあげられます。皮膚のかゆみはさまざまな原因で発生しますが、そのひとつとして常に忘れてはならないのが、糖尿病をはじめとする何らかの内科的疾患に伴って生じるかゆみです。腎疾患、肝臓疾患、血液疾患、膠原病、内臓悪性腫瘍など、かゆみを起こすことが知られている疾患は数多く存在します。難治性のかゆみのある患者さんに対しては、原因となる基礎疾患を調べる必要があります。

海外旅行と糖尿病

糖尿病内分泌内科部長 大見 仁斉



旭労災病院糖尿病内分泌内科に勤務しております大見仁斉(おおみひとし)と申します。昨年着任以来、外来にて英文診断書、またインスリン注射器や自己血糖測定装置等の器材を飛行機機内へ持ち込む為の証明書を書いて欲しいと依頼される事が月に1、2度あります。大学勤務時代にも、これほど頻繁にこのような書類を書いていなかったのも、尾張旭地域は海外旅行を楽しめる素晴らしい環境であると感じています。旅行に出かけられる患者さんの事を非常に羨ましく思いながら(横目で見ながら)、診断書を書くわけですが、インスリン自己注射をしている患者さんにとって、無用のトラブルに巻き込まれないよう細心の注意を払って記載しなければならないと思っています。ご存じのように9.11同時多発テロ以降、空港でのセキュリティーチェックは厳しくなり、検査官の荷物チェックは大変時間を要するものとなりました。患者さんが持ち込むインスリン注射器、自己血糖測定の器材は、金属探知器にて必ずブザーが鳴り、検査官、患者さん双方に一種の緊張感が走ります。残念ながら、全ての検査官が必ずしも医学的知識を持ち合わせているとは限らず、このような器材が糖尿病患者特有のものだからといって見過ごしてくれるとは限りません(検査官によって対応が異なる)。その為にも、糖尿病である証明書は常に携帯している事が大事と考えます。そして、絶対に原本の書類を相手に渡さないように、コピーを数枚用意して、書類を取られても原本は必ず手元に残るように準備しておきます。

私の経験ですが、旅行中に患者さんが内服薬やインスリン注射器を紛失したケースがあり、診断書、証明書が大変役に立った事例が2件(米国、豪州)ありました。薬剤の紛失に気づいた患者さんは、現地の薬局で、同様のインスリン、経口糖尿病薬を購入し、難を逃れました。しかし、日本での、ヒューマカート3/7、ノボラピッド注 300 フレックスペンは、米国では、各々Humulin 70/30 Pen、NovoLog FlexPenと名称が全く変わります。また内服薬の、一般名グリベンクラミドですが(商標名オイグルコン、ダオニール)、米国では一般名 glyburide(グリブライド)、商標名は Glynase、Micronase、DiaBeta という全く聞いた事のない名前が付いていて、一般名ですら、国によって異なる事がわかりました。その為、この経験以降は、証明書には一般名、商品名の両方を記載し、また薬剤の総称として、Sulfonylureas(スルフォニル尿素剤)も加えるようにしました。これは、単なる一例で、国によって商標名、のみならず一般名も変わります。これは、大変、混乱を招く事である事が予想されます。

海外旅行と食事についても述べたいですが、紙面の関係上、次回とさせて戴きます。外来での一言ですが、患者さんには旅行中の食事は、コントロールがなかなかできないから、旅行前に1キロ体重を減らしてから、出かけるようにしましょうか。とお話しています。